

解いてもよいし、コンパス4個や5個の難しい問題を中心に解いてもよいです。この課題を通じて、生徒個々の弱点の傾向が確認でき、主体的な評価にも繋がりました。全員一律の課題を出してしまうと、既に理解できている生徒にとっては単なる作業になってしまいかねません。また、基礎が十分に身につけていない生徒にとっては、応用的な問題に取り組んでも、答えを写すだけで終わってしまう場合もあります。そこで、個々の状況に応じて取り組めるように、この方式の課題を出しました。さらに、解説動画があることで、チャートを使った課題の出し方も幅が広がりました。難しい問題に対しても解説動画があるので、チャレンジしやすくなっていると考えています。

コンパスを集めることは生徒にも好評で、1年生の冬休みにはコンパス50個、2年生の夏休みにはコンパス180個を目標として課題を出しました。コンパスを多く集めた生徒には平常点のボーナスをつけたところ、2年生の夏休みでは236人中36人の生徒がコンパス300個以上を集め、最大では586個のコンパスを集めた生徒もいました。

2名の生徒さん(Aさん、Bさん)にもお話を伺うことができました。

チャート式の動画をどのように活用していますか。

日々の宿題で問題集を解くときは、まず3分考えてみて、分からなければ対応するチャートの例題を読む、それでも解決しない場合は動画を見るようにしています。夏休みの課題でチャートの問題を解くときも、まずは問題文だけを見て3分考えます。分からなければ考え方(CHART&SOLUTIONもしくはCHART&THINKING)を確認、それでも分からなければ解答を読みます。解答の内容が理解できない場合は動画を見る、という流れです。

動画はどのくらいの頻度で見えていますか。
例えば100問あったら何問程度の動画を見えていますか。また、コンパス(難易度)がどのくらいの問題の動画を見る人が多いですか。

(Aさん) 分からないときに見るようにしているので、全部の例題の動画を見るということはないです。100問あったら5問くらいです。コンパスは4個、5個の問題が多いです。

(Bさん) 私はもう少し多く100問中10問くらいのイメージです。コンパス3個、4個を中心に見えています。

動画は難易度の高い問題にあればよいでしょうか。あるいは全部の例題に付いているのがよいでしょうか。また、動画のよいところがあれば教えてください。

どの例題が分からなかったとしても大丈夫なように全部の例題に動画が付いているのがよいと思います。また、早送り・一時停止・巻き戻しを使いながら、繰り返し視聴できる点も使いやすいです。問題の途中の(2)までは分かるけど(3)が分からないといった場合も、動画が細かく分かれていますので、聞きたいところを探しやすく助かります。先生の説明では分からなかった部分も、繰り返し動画を観ていたら納得できたこともありました。

取材を終えて

解説動画について、藤島先生から「単に解答をなぞるだけでなく、考え方や行間を説明してくれているのがよい」とのお話を伺いました。最近では授業に生徒さんの反応があまりよくない箇所があると、「じゃあ、動画を確認してみよう」と言って、授業中に類似の問題の解説動画を一緒に見て「ほら、同じこと言っているでしょ」と確認するやり取りがされているとのことです。藤島先生のお人柄や生徒さんとの日々の授業風景も思い描くことができ、解説動画が生徒さんの日常に定着している様子を実感しました。また、藤島先生からは「同じことを説明しているが、説明の角度やニュアンスの違いによって理解する生徒が出てくる」とのお話も伺いました。生徒さんにとって理解するチャンスが増えることにつながり、解説動画の存在意義を再確認できました。

ご協力いただきました藤島先生、2名の生徒さんこの度は誠にありがとうございました。